

印刷する閉じる

若者BOXワイド
民青の仲間となら

2020年11月16日【社会】

コロナ禍で社会の矛盾を知り、声を上げる青年が増えています。今月開かれる全国大会を前に、青年とともに奮闘する日本民主青年同盟（民青）に加入した青年に、加盟の動機や抱負、活動した経験を聞きました。（前田智也、菅原碧衣）

政治・社会変えられる

石川県の医療職場で働く 林千絢さん（26）

今まで、政治や社会についてあまり関心がありませんでした。自分が知っても変わらない、関係ないことだとずっと思っていたからです。

そうした考えが変わったきっかけは、コロナ危機でした。生活面でさまざまな制限を受けただけではなく、勤務先の病院でもマスクや消毒用アルコールが足りなくなる。みんな困っているのに、政治が何をしているか見えてこない。不安になると同時に、政治が私たちの暮らしに密接にかかわっていると痛感しました。

そんな時に民青が、医療・介護機関への支援を国に求めるオンライン署名やフードバンクなどに取り組んでいると知りました。「一人では何もできないと考えていたけれど、みんなで行動すれば社会は変えられる」と実感して、9月に加盟しました。

医療制度の改悪やコロナ禍で、患者さんが十分な治療を受けられず、医療職場で働く人も疲弊しています。この状況を変えたい。

以前の自分のように、政治に不安や疑問を感じていてもどうしたら良いかわからない人はたくさんいると思います。民青の仲間と学びながら、できることをやっていきたいです。

関心事へ踏み出せる

静岡県 大学2年生の女性（20）

近所の人に誘われて民青の交流会に参加し、学びたいことや興味のあることを話したことがきっかけで加盟しました。

交流会では、母子家庭の問題について活動したいと話しました。

私自身も母子家庭でした。大学の講義でコロナ禍での母子家庭の生活がいつそう苦しくなっていることや社会的支援の弱さを学び、何かしたいと思いました。

仲間が「やってみようよ」と言ってくれ、「民青なら私のやりたいことができる」と思いました。

民青ではフードバンクのスタッフもしました。「大学がオンライン授業ばかりで学費が高い」という人、バイトが減って困っている人、逆にバイトの時間が増えて長時間労働に悩む人など、コロナ禍で学生など弱い立場の人が影響を受けていることを知らされました。

こうした弱い立場の人々に目を向けていない政治を変えなければいけないと思います。

民青で学習し考え、困っている人たちがいることを社会に伝え、弱い立場の人に目を向ける政治を求めていきたいです。

同年代の意見聞ける

愛知県 大学4年生の女性（22）

駅で民青のコロナ実態調査と政治に求めるものをテーマにしたアンケートに答えて、対話したことがきっかけでその場で民青に加盟しました。

これまで、政治に対して「自分一人が動いても変わらない」と思っていました。周囲の友達も諦めている人が多く、同年代の人と政治について話す場所がありませんでした。

街頭でコロナ禍の政治の話やジェンダー問題で話が弾み、「もっと同年代の人の意見を聞いてみたい。話をしてみたい」と思いました。

民青に入って、「どうしたら政治や社会を変えられるか」と考えて行動している同年代の人が多くいることを知りました。学習したり活動するなかで、私たちの活動は無駄じゃないと思えるようになりました。

私の家庭は母子家庭で、奨学金を借りながら年間約160万円の学費を納めています。生活も苦しいのに高い学費を払わなければ、自分の好きなことも学べないのはおかしい。今後の日本の発展を考えても学費を半額にして安心して学べるようにすべきです。

民青の活動を通じて政治や社会を変えていきたいです